〝光〟で都市を活性化

シンポジウム 大阪で開催 フランスの事例から学ぶ

大阪の中心部・中之島をイルミネーションや光のアートで彩る「OSAKA光のルネサンス2008」の連携イベント「大阪・光のまちづくりシンポジウム～フランスの光に学ぶ」が12月20日、大阪市の堂島リバーフォーラムで開かれ、約200人が参加した。

有識者が意見交換した

主催は、光のまちづくり企画推進委員会、中之島まちの魅力向上実行委員会。

同シンポジウムは、08年に日本とフランスが交流を開始して150周年を迎えたことなどから、フランスで光がまちづくりに果たしている役割などについて考えようと開催された。

基調講演では、元NHKキャスターの磯村尚徳・日仏メディア交流協会会長が「フランスの街づくりと光」のテーマで講演した。ミッテラン大統領時代のパリ大改造計画など、歴代の大統領が行った街づくりの事例を紹介。パリの街づくりには①文化の力を世界に発信するグランドデザイン②具体的な実行のためのマスタープラン③世界一の街にしようとする市政、市民の強い意識――があると指摘した。

続いてパリ出身のマニグリエ真矢・エクスプリム代表取締役が、世界遺産のノートルダム大聖堂で知られる中央フランスの光の街シャルトルのイルミネーションを紹介。日帰り客中心の町が、イベントによりホテルの稼働率が80％に上がるなど滞在型に変わったことを説明した。

パネルディスカッションは、「都市活性化に果たす〝光〟の役割と可能性」のテーマで、岡智恵子・水都2009実行委員会マネージャー、森秀人・ライティングM代表、マニグリエ真矢氏が参加。磯村氏がコーディネーターを務めた。「もっとイベントの告知が必要」「大阪らしさを再度議論するべき」などの意見が交わされた。

【西岡亜矢子】

大阪府 イルミネーション御堂筋で点灯実験

大阪府は12月8日から、大阪のメーンストリートである御堂筋の一部で、にぎわいの創出を目指したイルミネーション点灯の実証実験を実施している＝**写真**。冬の御堂筋を光のプロムナード（散歩道）にする試み。期間は2月28日まで。

橋下徹知事の提唱する大阪ミュージアム構想の一環で、御堂筋のイチョウ並木をイルミネーションで装飾することで他の都市を圧倒するような美しい「光のまち」として人々を引きつけ、にぎわいを創り出すことを目指す。今年度は府民ニーズや事業効果を検証することにしている。

御堂筋の西側2列は「インペリアルトパーズイエロー」（愛称・御堂筋イエロー）の光でイチョウ並木を再現。東側2列はピンクやホワイトなどさまざまな光を実験的に点灯する。

イルミネーション装飾には消費電力が低く、地球環境に優しい発光ダイオード（LED）を使用し、電力はすべてグリーン電力証書システムでまかなっている。

巨大天使の砂像 イベントに出展 鳥取市

鳥取県鳥取市は12月13～25日、大阪市の中之島で、鳥取砂丘の砂で作られた巨大な天使の砂像を展示した。中之島一帯がイルミネーションなどで飾られる「OSAKA光のルネサンス2008」イベントの一環として参加。ライトアップされた砂像は砂の芸術の幻想的な美しさで来場者を魅了していた。

砂像は砂像彫刻家の茶圓勝彦さんが制作。高さ4㍍、幅16㍍で、鳥取から260㌧の砂を運び、1カ月かけて製作した。

会場の鳥取ブースでは、カニ汁やサザエの壷焼きなど特産品の販売のほか、09年4月から1年間、鳥取県の因幡地域で開催される鳥取自動車道開通記念事業「2009鳥取・因幡の祭典」をPR。同祭典では、オープニングイベントとして世界各国の砂の彫刻家が腕を競う「世界砂像フェスティバル」が行われる。

なにわなんでも大阪検定 大阪商議所、6月に初試験

歴史や文化など多様な大阪の魅力を知ってもらおうと、「なにわなんでも大阪検定」の第1回公開試験が09年6月21日に大阪市内の会場で実施される。主催は大阪商工会議所。会場は未定。

検定では、大阪府域の歴史や文化、産業、食、観光など幅広い分野の知識を問う。公式テキストも09年2月下旬をめどに刊行する予定。3級と2級の2レベルで、いずれもマークシート選択方式。出題は100問以内。受験料は3級が3300円、2級が4400円。1級の検定は2010年度から2級合格者を対象に実施する予定だ。

合格者には特典がある。海遊館や空中庭園展望台、大阪城天守閣などの入場料割引クーポンの冊子が贈られるほか、町歩きイベントの特別優待も。成績優秀者は次年度の検定料が無料になる。

名称は一般公募の201件の中から採用。「なにわ」や「なにがなんでも」、「なんでも」など多様な意味を含み、楽しい試験であることを想起できることから決定した。また、検定のシンボルマークも、大阪の「大」をモチーフに製作した。

主催の大阪商工会議所では、合格者向けのグッズ製作や特典の提案などに関する協賛企業も募集している。

http://www.3s-group.co.jp/
キレイな宿
スリーエスグループ本部
システム・シャイン・サービス（株）

外国人らが博物館を点検 「展示表記の多言語化を」

東京国立博物館で「ひとり歩き点検隊」を開催

観光庁は12月17日、東京都台東区の東京国立博物館で、外国人らによる「ひとり歩き点検隊」を実施した。外国人観光客が1人歩きできる環境が整っているかを点検するのが目的で、観光庁で行政体験研修中の留学生を含む8人が参加。展示物や館内施設について、多言語化の表記を求める要望などが出た。

点検隊は各地の空港や駅周辺などで実施してきたが、1月20日からの集中キャンペーン「YOKOSO JAPAN WEEKS」で、日本の文化、芸術を外国人にアピールすることから、博物館を対象に初開催。文化庁が全面的に協力した。

点検隊のメンバーは、韓国観光公社東京支社の李太永次長、観光庁の行政体験研修生など5カ国・地域の8人。チケットの購入方法や館内案内、展示物の表示などを点検した。

点検後の意見交換では、総合パンフレットが6言語で作成されていることなどは評価されたが、「個々の展示物も英語だけでなく、中国語、韓国語などで表示できないか」といった要望があった。自動券売機やコインロッカーの使用方法の説明も英語以外の表示を期待する声があった。

厳冬期に探鳥ツアー 根室市 2月にバードフェス

オホーツク海と風連湖にはさまれた砂州「春国岱」など日本有数の野鳥の楽園を持つ北海道根室市で、第2回目となる「ねむろバードランドフェスティバル」が2月7、8の両日に開かれる。主催は根室市と根室市観光協会。探鳥ツアーや展示などを行うバードウォッチングのイベント。参加者を募集している。

野鳥愛好家の間で世界的に有名な春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターや白鳥台センター「すわん44ねむろ」、温根沼会館コミュニティセンター「みずとり」が主会場。

専門家が案内する探鳥会、船上から海鳥を観察する根室半島一周探鳥ツアーなどの体験型プログラム、初心者も楽しめる探鳥講座や写真講座も用意されている。シマフクロウ展やラムサール展も開かれる。

厳冬期に行うバードウォッチングのイベントは珍しく、海外からの問い合わせも多いという。

問い合せ先は、実行委員会事務局（根室市役所水産経済部商工観光課内・☎0153・23・6111）。

群馬・アンテナ店「ぐんまちゃん家」 来場者10万人を達成

東京・東銀座にある群馬県のアンテナショップ「ぐんまちゃん家」（ぐんま総合情報センター）の来場者数が12月21日に10万人を達成、同日、記念式が行われた。10万人目となったのは奇しくも県出身の女性で、関係者も驚きの様子だった。

式では10万人目と9万9999人目、10万1人目の3人が、県の石田哲博企画部長、ぐんまちゃん家の金子敏男家長とともにくす玉を割った。

10万人目は神林さん
＝写真中央

10万人目となったのは伊勢崎出身で、今は神奈川県に住む神林恵さん。認定証とともに、ペア温泉宿泊券、ぐんまちゃんぬいぐるみが贈られた。

神林さんは高校時代の友達2人と、伊香保の石けんを買うために初めて足を運んだ。「10万人目と聞いてびっくりしました。ペア温泉宿泊券の使いはじっくり考えます」とニッコリ。

友達の一倉誠子さん（榛東村出身）は10万1人目となり、9万9999人目の池下雅子さん（東京都在住）とともに、川場村産こしひかり「雪ほたか」（5㌔）とぬいぐるみが贈られた。

ぐんまちゃん家は08年7月オープン。当初は年間来場者10万人を見込んでいたが、オープン5カ月で達成したことになる。

SL運行や徒歩ツアー 熊本県 観光説明会で紹介

くまもとさるく

熊本国際観光コンベンション協会（熊本県熊本市）はこのほど、東京都内で熊本の観光説明会を開き、来年春から初めて熊本駅と人吉駅間を運行するSL列車などの情報を紹介した。説明会後には、熊本の食材の試食会も行った。

鹿児島本線・肥薩線「SL人吉」は熊本駅と人吉駅間を結ぶ。09年4月24日から運行を開始する予定。11月までの土曜、休日、春休み、ゴールデンウイーク、夏休みの期間中、1日1往復する。全車指定席で、乗車料金は熊本駅～人吉駅まで利用した場合、大人1人片道、2570円。

そのほか説明会では、09年3月まで行われている、熊本城下町を歩くガイドツアー「くまもとさるく」も紹介。全8コースを設け、その1コース、熊本城本丸御殿を見て回る「熊本城本丸御殿を見てさるこっ」は毎週金、土、日、月曜日に実施している。事前に予約が必要で参加料金は1人500円。

試食会では熊本の郷土料理「馬肉料理」を専門店の菅乃屋がふるまった。熊本の地酒「東肥赤酒」は瑞鷹が、米焼酎「白岳」は高橋酒造が提供した。

お年玉キャンペ 豪華賞品を用意 成田市

千葉県成田市は1月15日まで、ウェブ限定で「開運お年玉プレゼントキャンペーン」を実施する。クイズに答え応募すると、海外旅行や市内の旅館・ホテルの宿泊券などが当たる。

観光客らの多くが、事前にインターネットを見て成田を訪れている状況を踏まえ、市観光協会の公式サイト、FEEL成田（http://www.nrtk.jp）を窓口にして実施している。キャンペーンには旅館・ホテル、旅行会社を含め約80社が協力、「200点を超える賞品が集まった」という。

同サイトの特集ページ内にある「市検定」クイズに答えるのが条件。正解者に抽選で豪華賞品を贈る。

湯郷温泉に鉄道模型館オープン おもちゃも展示

岡山県美作市の湯郷温泉に12月20日、「湯郷温泉てつどう模型館&レトロおもちゃ館」がオープンした。産学協同事業として京都精華大が協力。同大の学生が製作した温泉街をテーマにしたマンガや鉄道模型ジオラマの展示を行う。

鉄道模型ジオラマは約100平方㍍。美作湯郷と同地を走るJR姫新線をイメージした。レトロおもちゃは、神戸在住の画家、竹中信清氏が20年かけて収集したものを展示。また、少年雑誌のイラストやプラモデルの箱絵などで活躍した昭和の挿絵画家、故小松崎茂氏の貴重な原画なども展示される。

入場料は大人300円、小人150円。休館日は水曜日（祝日の時は翌日）。問い合わせは同おもちゃ館（☎0868・72・0061）まで。

ゲレンデ彩る 湯沢冬花火

スキー場で花火が楽しめる「湯沢冬花火」が12月31日から来年3月28日までの期間中、新潟県湯沢町内13のスキー場で順次開催される。創作花火がゲレンデを幻想的に演出する。

日程は次の通り。

12月31日＝湯沢パークスキー場、NASPAスキーガーデン▽1月10日＝パインリッジリゾート神立▽1月11日＝GALA湯沢▽1月12日＝湯沢中里スキー場▽1月17日＝湯沢高原スキー場▽1月24日＝NASPAスキーガーデン▽1月31日＝中里スノーウッドスキー場▽2月17日＝苗場スキー場、かぐら・みつまたスキー場▽2月21日＝ルーデンス湯沢スキー場▽3月7日＝湯沢高原スキー場▽3月14日＝かぐら・田代スキー場▽3月21日＝一本杉スキー場▽3月28日＝岩原スキー場

ライトアップ&イルミネーション
信州 上諏訪温泉
諏訪を彩る光の祭典
点灯期間 12月19日(金)～2月15日(日)
点灯時間 17:00～22:00
諏訪湖温泉旅館組合
ご宿泊のお問合せ 0266-52-7155
上諏訪温泉 検索

和装ユニフォームのことなら…すべて
久磨衣の地区担当者におまかせください!
担当:岸 広美
h-kishi@nunonochikara.com
お問い合わせ、資料請求はいますぐ下記まで
スゴクイー クマイ
0120-591-901

地域観光

体験型観光 現場〈138〉

地域振興への信念

「信念を持って取り組む年に」（北海道標津町のご来光）

年末には大企業の大量リストラなどがあり、100年に一度の経済危機とも報じられ、09年は厳しい正月を迎えることになった。そんな中、格安航空会社のジェットスターが08年12月18日に成田や関空とオーストラリア各地を結ぶ路線として就航した。燃油サーチャージが大きな負担となっている今日の海外旅行マーケットで、日豪間の往復航空運賃が数万円とあって注目が集まる。

成田と羽田の両空港でも滑走路の拡張や増設の工事が進み、さらには都心と成田空港を35分で結ぶ北総線からの延長工事も2010年の完成に向けて進んでいる。その沿線の押上駅の前では、世界一の電波塔「東京スカイツリー」の工事が始まった。何本もの巨大クレーンが動いている。

発着枠の拡大からも格安航空会社の参入の増加は当然の動きになるだろう。原油も値下がりしたのか、ガソリンが100円程度になった。09年は燃油サーチャージの値下げが確実なことから、外国人の誘客にも弾みがつく。さらに円高と相まって日本人の海外旅行拡大の年となるであろう。

しかし、景気の悪化や先行き不安により消費行動に歯止めがかかる懸念がある。影響が少なければいいのだが、と願う関係者も少なくない。

はずだ。苦戦が必至の国内旅行は外客誘致と体験交流滞在型の旅行に大きく転換することがかぎとなる。

近隣諸外国からも、「日本の田舎」「日本の真実」「人」をキーワードに体験交流を希望するオファーが来ている。農家や漁家でのホームステイは、人間関係構築力を課題とする学校教育にあって、修学旅行での教育効果も実証されており、大きく伸び、定番になりつつある。その日本でのホームステイもすでに諸外国から問い合わせがある。

設備投資がほとんどない体験交流型の観光に力を注ぐ年にしてほしい。そんなことを言い続けて10年目の正月になる。その間、南信州観光公社、越後田舎体験、和歌山ほんまもん体験、長崎県松浦党などをお手伝いしてきたが、いずれも新たなる誘客分が億円産業に成長してきた。それに続く予備軍は単年の直接収入が数千万円ではあるが、いずれも億円の未来が見えている。

共通しているのは既存の観光地が低迷していたり、観光地すらなかったりしたこと。新たな観光資源が必要だとの認識と、このままではダメだという危機感が体験交流型の観光への扉を開いた。これこそが地域振興の道だと信じて進んできた地域である。信念を持って取り組む新年にしてほしい。

（体験教育企画代表・藤澤安良）